

# 戦後国際農業交渉の史的考察

関税交渉から農政改革交渉への展  
開とその社会経済的意義

2005.1.25 遠藤保雄

# 戦後国際農業交渉の史的考察

国際経済の一体化に不可欠な交渉プロセス

- GATTの「例外」から「本来原則」への回帰プロセス
- 伴う農業の構造調整... 壮大な政治経済調整
- 常に存在した主役

# 戦後国際農業交渉の史的考察

## 戦後国際農業交渉の二つの道

(1) 米国を基軸にガット・WTOラウンド交渉

(2) 対米関係を軸とした日米二国間交渉

- 但し, 80年代末以降、90年代に入り日米二  
国間農業交渉はガットラウンド交渉に吸収

(3) ドーハ開発ラウンド

先進国間交渉から先進国・途上国間交渉へ

# 戦後国際農業交渉の史的考察

## 国際政治経済要因のレビュー

- ・ 東西対立・冷戦構造：西側でのガット
- ・ 西側の段階的な経済発展・相互対立
- ・ 冷戦構造の氷解と経済のグローバリゼーション
- ・ 南の世界経済への包摂と「南」と「北」の対抗関係

# ガットラウンド農業交渉の出発点

-ガット(1948年制定)とその二つの基本的性格

ア.自由貿易制度を守るため協定

最恵国待遇, 内国民待遇,

内外無差別の原則,

関税の軽減・安定の原則, 相互互惠主義

イ.ガットラウンド交渉の場の提供

# ガット農業交渉の出発点

ガット一般原則の各種特例規定・扱いの導入・  
米国主導

ア．輸入制限の禁止の特例(ガット11条2項c  
( ))

イ．輸出補助の禁止の特例(ガット16条)

ウ．ガットウェーバーによる輸入制限の合法  
化

# ガット農業交渉の出発点

ガット上の農業の特例規定・扱いの導入  
導入に秘められた米国の意図

- ・輸出補助—小麦,とうもろこし等の強大な生産力,過剰・・・輸出補助,食料援助等での需給調整
- ・ガットウエーバー・・・米国農業の弱い輸:砂糖,酪農,綿花,落花生・・・生産制限なき輸入制限

# ガット農業交渉の出発点

欧州・日本の追隨

- ・ 欧州（輸出補助と可変課徴金）

欧州経済の復興：将来的な経済統合の一步としての共通市場形成

- ・ 日本（輸入制限）

米,牛肉等の農産物の輸入制限下での価格政策

# 農業交渉に潜むトゲ

## 農業と経済発展

- 国民経済上の農業の比重の変化：ペティ・クラークの法則
- 農業就業人口の動き：構造調整と直結
- 農業と政治
- 農業とその国土利用：環境保全との関連

# 農業交渉に潜むトゲ

## 農業生産と農産物需給

・不足と過剰の並存・紙一重

不足：農業生産の脆弱性，食料不足，貧困・  
社会不安，経済発展の制約要因

過剰：農産物価格の下落，保護主義，資源  
調整の困難性

-価格弾力性の低さ、下方硬直性：政治経済  
問題

# ガットラウンド農業交渉

- (1) 50年代... 米国主導、工業関税引き下げ主体:
- (2) 60年代... 米・欧二極間交渉:  
デイトンR (60-61年)、ケネディR (64-67年)
- (3) 70年代... 米・欧・日の三極間  
東京R (73-79年)
- (4) 80年代... 米(ケアンズG)・欧・日という先進国間  
の交渉... ウルグアイR (86-94年)
- (5) 90年代 - 21世紀... 米(ケアンズG)・欧・日と途上  
国の交渉... グローバリゼーションの波  
... ドーハ開発R

# 50年代:米・欧・日:39:17:1

パックス・アメリカーナ:米国の経済産業による世界支配

工業品を主体に4次にあたる関税引下げ交渉...米  
国主導

米国農業の動き

- ・米国での小麦、とうもろこし大增産と対欧州輸出
- ・強制減反とPL480による援助輸出
- ・穀物—畜産物—大回廊計画

# 60年代:米・欧・日:34:19:3 ディロン・ラウンド(60-61)

## EEC発足に伴う実質的な米・EEC間の交渉

欧州経済の台頭による米・欧の二極化経済

米国農産物にとり欧州は重要な市場

1958年に関税同盟としてのEECを創設

- 対外共通関税を設定したEECを相手に関  
税代償交渉

# ディロンラウンド

## 交渉結果:

- 事実上、可変課徴金のガット上での認知
  - EECによる油糧種子等の関税をゼロバンドでの譲歩: UR交渉での火種
- EECとしては、これを機に共通農業政策(CAP)の導入の検討
- 農業保護の拡充整備 食料の域内生産の刺激と  
欧州の輸入の減少、

## ケネディラウンド(63-67年)

国際収支の悪化・ドル不安に直面した「米国」と関税同盟化した「EEC」との間の交渉

米国の農産物の過剰基調－世界市場の確保が命題

米国の関心事項：EECの農業保護(CAP)の整備－食料生産の域内優先と対外農産物輸入の域内転換の抑制

# ケネディラウンド

## 争点

関税：農工一体の50%カット vs 農業の特殊性の考慮、

非税障壁の「関税化」の扱い

「域内保護水準の固化」(Montant de Soutens)の扱い

穀物市場の秩序化のための商品協定... 価格帯の設定、過剰分の食糧援助化

# 明確になった米・欧・日の農業戦略

米国の二元的な農産物貿易政策：

輸出戦略作物の自由化追求

輸入制限(酪農品へIQの維持、食肉輸入法導入)

EECによる共通農業政策の根幹の維持(可変課徴金・輸出補助・国内支持の三位一体での確保)

共通農業市場の形成が欧州市場統合の土台

日本は交渉上のメリットを享受：国境措置(高関税や輸入数量制限)の下での価格支持政策・・・農業の特殊性の確保、MDSの拒否、関税化の回避

# 70年代:米・欧・日:32:21:6 東京ラウンド(73 - 79)

73年の第一次石油危機...世界経済のトリレンマ(景気後退、インフレ、国際収支の悪化)

米国の産業競争力の低下、対外貿易収支の赤字とニクソンショック, 保護主義的な動きの台頭

欧州経済の停滞(競争力の低下・スタグフレーション)とユーロ・ペシミズムの蔓延, 拡大EECの経済ブロック化の懸念

日本の工業品輸出国としての台頭, 米欧市場への輸出拡大・米欧経済の追い上げ

# 東京ラウンド (国際農業交渉上の課題)

ECの「域内市場の確立」と「アフリカ・地中海国・北  
欧との特惠貿易関係の確立」 ECの貿易制限・貿  
易転換効果の抑制

米国：・輸出先の多元化(ECに加え加、日等)、  
・輸出品目の多様化(小麦に加え、飼料穀物、大豆、  
付加価値品 フラニガン・レポート)、  
・交渉事項の多様化(関税 + QR, 輸出補助金、国内  
支持)

世界的な穀物需要の増大とソ連不作、需給のタイト  
不安定化、穀物禁輸・・・食料安全保障

# 東京ラウンド

東京ラウンド合意:

- 「スイス・フォーミュラ」に留意した関税引下げ,
- 輸入数量制限: R/O方式での軽減,
- 輸出補助規律の運用強化と補助金コード
- 貿易安定化と商品協定の限界・・・食料安全保障議論の台頭

# 日米農業交渉

- 貿易不均衡や個別輸出利害ベースの貿易協議から  
ガットに照らしての農産物自由化協議へ
- ・交渉を規定した3要因  
日米貿易不均衡,  
米国の対日輸出利害,  
ガットルールとの整合性

# 日米農業交渉

## 日米二国間交渉の展開... 4つの時期

(1) 50～60年代半ば

日本の経済復興、農産物需要拡大

(2) 60年末～70年代半ば

両国間での相互補完的な農産物貿易の展開, 蜜月期

日米間で米国産小麦, 飼料穀物, 油糧種子の貿易拡大

日本の農産物需給の変化

- ・小麦, とうもろこし, 大豆等の土地利用型作物生産が大幅に後退, 農業の選択的拡大
- ・食生活の変化・向上に伴うパン食の普及, 畜産生産の拡大, 植物油脂産業の発展

# 日米農業交渉

## (3) 70年代末～80年初:保護vs自由化

日米牛肉・オレンジ自由化交渉:第一次(78-79)/第二次(82-84)

米国産高級牛肉、CA/FLのオレンジ

日米貿易不均衡下での市場の閉鎖性の象徴

米国の「高付加価値農産物」輸出戦略

日本の農業の選択的拡大戦略と対立

貿易の拡大均衡との視点 比較優位を有する  
「財」の日米双方向での貿易拡大・構造調整

# 日米農業交渉

## (4) 1980年代半ば以降の日米農産物交渉

「自由化」「非関税障壁のガット整合化」交渉へと本質化、

ア. 農産物12品目問題 ガットの場合での非関税障壁の法的判断(88年パネル裁定):ガット上の農業の特例的扱いを見直し

イ. 第三次牛肉・オレンジ交渉...完全自由化要求とQRの関税化の先例化、直接支払いの導入

ウ. コメの通商法301条提訴(86年, 89年)...輸入制限の例外なき見直し

# 日米農業交渉に見る戦略の差

- ・ 米国：農業再活性化のため、
- ・ 国内処方箋：米国農業法の市場メカニズムベースの施策への改変・見直し
- ・ 対外的処方箋： 多国間ベースではURでのゼロオプションの提起， バイでは日本のIQのガット非合法性を追求
- ・ 日本：外圧対応型：大幅な内外価格差，構造調整の困難性，政治的制約

# ウルグアイ・ラウンド交渉

一般産業分野・・・米欧(保護主義) vs 日・アジアNIES(輸出拡大)という対立構図、  
地域主義の世界的広がり、特にECの経済要塞化の懸念 vs NAFTA

米国農業の存在感：

- ・自由貿易推進による保護主義抑制、
- ・多国間交渉の追及 相互主義・地域主義の抑制

# ウルグァイ・ラウンド交渉

## 米国主導の壮大な農業改革

- (1) 70年代: 米国農産物の輸出依存の高まり
- (2) 80年代に入り, 農産物の国際的な過剰化、EUの農産物輸出国化 輸出補助金競争による国際市場の混乱、米国農産物輸出の半減、価格低迷による米国の農業不況、
- (3) 先進国での農業保護の強化による財政支出の増加(27 258億ドル): OECDでの先進国の農業保護の計量分析の進展

# ウルグァイ・ラウンド交渉

- 農業のガット本来のルールへの整合化の追求、
- 先進国の貿易歪曲的な農業保護の削減と市場依拠型の政策への転換の追求
- 具体的には、
  - 過剰農産物の輸出の原点たるECのCAPの基本的改変、
  - 日本の非関税障壁(輸入数量制限)の除去と市場アクセスの実現・高い農業保護水準の是正、
  - 米国農政の市場依拠型への徹底的改変とガット・ウェーバーの下での輸入障壁の除去を追求

# ウルグァイ・ラウンド交渉

交渉対象：「国境措置」プラス「輸出補助，国内支持」

農業合意の核心：農政改革そのもの

- ・ 輸入数量制限の関税化
- ・ 輸出補助の数量・金額両面での削減、
- ・ 国内支持措置の削減：AMS(保護の計量手段)での削減と生産・貿易歪曲的でない手法の導入
- ・ 継続交渉規定と平和条項
- ・ 「非貿易的関心事項の考慮」の論議

途上国の農業協定への内包

# UR 農業合意を踏まえた米国・EU・日本での 農政改革の取組み

- 各国の農政改革：共通する市場経済主義重視
  - － 1996年米国農業法と「2002年農業法」
  - － EUの1992年農政改革とAgenda2000
    - ・ 磐石な拡大EU市場の基礎固めとしての農政の改革
  - － 日本：食料・農業・農村基本法と食糧法
    - ・ コメの関税化への踏み切り

# ドーハ開発ラウンド WTO農業継続交渉

- 2001年11月の「ドーハ開発ラウンド」WTO閣僚宣言
- 基本的にはウルグァイラウンド農業合意に規定された農政改革の追及を枠組み
- 非貿易的関心事項の考慮
- 開発途上国に対する特別かつ異なる待遇

# ドーハ開発ラウンド WTO農業継続交渉

## 三つの新しい交渉環境

米国経済の再生、EUの統合の進展、デフレに悩む  
日本 米国スタンダードでのGlobalization

農業・工業を問わず市場メカニズムの役割増大

途上国の多様化・台頭：世界の工場としての中国、  
ブラジル・アルゼンチン、インド、タイ等アセアン、

途上国「農業・繊維」vs 先進国「投資、サービス  
等」

地域主義の深化：NAFTA/大米州経済、EU大統合、  
アジアEPA

# ドーハ開発ラウンド WTO農業継続交渉

## 農業分野の交渉環境

国際農産物市場の90年代末以降の低迷・不安定  
途上国農業の二極化・台頭と米国農業への影響  
WTO規律の「市場不適合問題」・「市場の失敗問題」...途上国農業の振興のため特別待遇

アグリビジネスの国際的展開と農業利害とのずれ

- ・投資・生産ライセンス供与・技術提携、原料農産物・半製品の開発輸入・企業内貿易、
- ・生産地域の多様化

# ドーハ開発ラウンド WTO農業継続交渉

## 米国の戦略

- ・米国農業の競争力の相対的減退の巻き返し
- ・先進国・途上国間での農業政策調整
- ・伸びの期待される途上国の自由化追求

## EUの戦略

- ・価格競争力の強化:一層のCAP改革
- ・大農業地帯、「中東欧」の統合とCAPの適用
- ・WTO交渉の活用:外圧

# ドーハ開発ラウンド WTO 農業継続交渉

途上国の戦略:二元的

- ・攻めの視点:先進国の輸出補助・農業保護の削減の要求

先進国市場の開放

先進国の過剰農産物による途上国農業の  
圧迫回避

- ・守りの視点:途上国農業の特別かつ異なる待遇の追求

# ドーハ開発ラウンド WTO 農業継続交渉

グローバル化の途上国への波  
二元的な途上国の発展

タイプ : 一次産品依存 輸入代替工業化  
輸出指向型工業化 農産物の消費拡大、輸  
出と保護の並存: 「緑の革命」の成功

アセアン、中国、伯・亜、インド

タイプ : 一次産品依存 内戦・ガバナンスの  
悪さ 経済停滞・農業生産基盤の弱さ 食  
料不足、貧困・飢餓: アフリカ、南アジア

# ドーハ開発ラウンド WTO 農業継続交渉

## 日本の戦略

- ・大きな農産物価格の内外価格差
  - 非貿易的関心事項での配慮の追及
  - 構造調整の時間確保：市場メカニズムの活用、選択と集中、高生産性農業と農村維持
- ・一般産業界はFTAに傾斜...シンガポール・イシュー

# ドーハ開発ラウンド WTO農業継続交渉

米国による原則論的提案:関税大幅削減  
EU/日本等の反発

米・EU共同テキスト...米国の農業助成(反循環支払い)とEUのCAP合理化案の擁護

途上国:先進国の保護削減後退と途上国攻撃への反発

先進国と途上国の意見調整メカニズム  
(NG5)・・・見えない日本の姿

04年7月:基本枠組みの合意

# 今後の国際農業交渉に必要なこと 農業交渉の難しさ

立地条件(土地, 労働力, 資本)に規定される規模, 生産性, 競争力の違い

・先進国:

新大陸国(米国, オセアニア) vs

欧州, 日本

・途上国

中南米, アジア, アフリカ, 太平洋諸国, カリブ諸国, 東欧諸国

# 今後の国際農業交渉に必要なこと 農業交渉の難しさ

世界の農業生産と農産物貿易：市場メカニズムに潜む限界ー大きい価格需給変動

- ・農産物：自給的性格 限界生産部分の貿易
- ・輸出国の地域的偏り・寡占化
- ・大生産地域での輸出・輸入の振幅

# 今後の国際農業交渉に必要なこと 農業交渉の難しさ

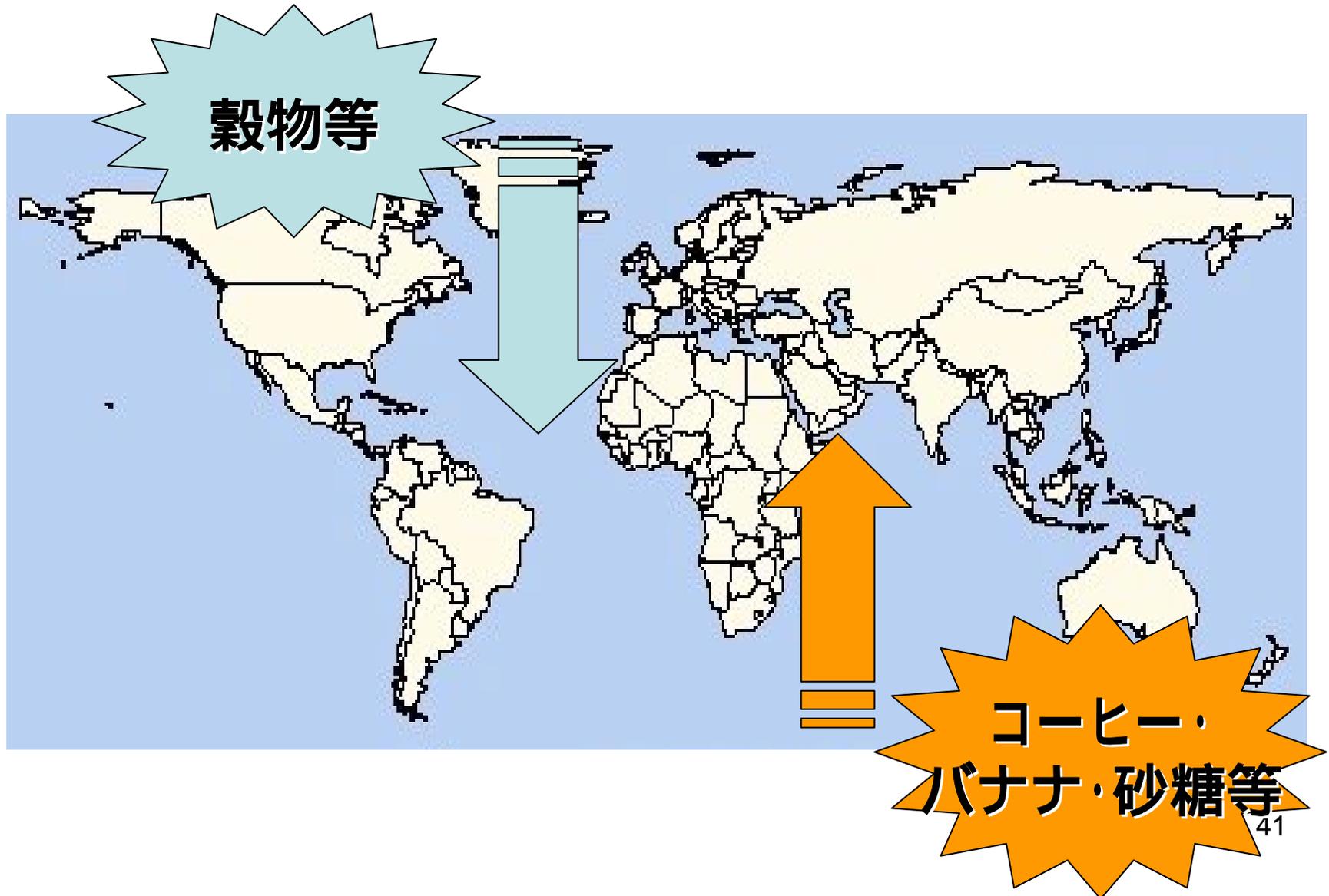
生産と貿易の競合 輸入調整の残存

・温帯産品・競合産品・熱帯産品:競合と補完

・輸出国の新規参入・農産物代替品の影響

アグリビジネスと農業との利害のずれ

# 世界の食料の供給の基本構造



# 今後の国際農業交渉に必要なこと

重ね型での展開：取り残されかねない日本

WTO交渉

FTA交渉

極めて難しい利害調整

- 市場メカニズム対応先行か
- セーフティネット準備型の対応先行か
- 二元化する対途上国戦略準備型の対応か
- ・ 貿易での配慮
- ・ 開発援助での配慮

# 今後の国際農業交渉に必要なこと

## 必要な日本「国」としての総合戦略

- ・農・工・サ-ビス一体となった総合通商戦略
  - 市場の失敗対応を前面に打ち出した市場自由化戦略
  - FTA/EPA: 途上国の1/100セクターに配慮した通商戦略
- ・遅れた途上国, 遅れた途上国農村をターゲットにした複眼的な開発援助政策